

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。

さて、去る10月29-30日、護蹄研究会（獣医師・削蹄師中心の蹄管理の勉強会が開催されました。そこで発表された演題のうち、多くがホームページ（HP）上での公開を承諾下さったので、ご紹介しましょう。



#### 基調講演

- 1：顧客牧場における護蹄アプローチ（濱田将臣・岡山開業）
- 2：蹄病制御の現状と今後（中村聡志・北海道開業）

話題提供：新しい削蹄法の試み（沖田太一・北海道/九州削蹄師）

#### 一般演題

- 1：下腿部筋損傷・起立不能状態から回復した肉牛の1症例（伊藤ひまり・酪農大学学生）
- 2：有孔ラバーマットの可能性（阿部紀次・北海道開業）
- 3：同一肢両側蹄角質疾患に対して蹄底ブロック装着とギブス固定の併用（菊池允人・千葉NOSAI）
- 4：初産牛の蹄角質疾患とゲノム情報との関連（中村聡志・北海道開業）
- 5：乳牛同一肢に生じた内外蹄病変に対してギブス固定を行った13症例（鳥羽雄一・三重開業）
- 6：ホルスタイン種育成牛のDD多発農場における治療効果の検証（角田偵徒・酪農大学学生）
- 7：自作鎌型蹄刀の耐荷重試験について（久津間正登・北海道削蹄師）
- 8：蹄ブロックの失敗例（沖田太一・北海道/九州削蹄師）
- 9：市販虫除けスプレーによる牛体への忌避効果（中野目正明・福島削蹄師）
- 10：牛の抗菌性蹄ソックスの開発と装着効果の検討（磯日出夫・栃木獣医開業）
- 11：護蹄研究会の削蹄法私案（眞鍋弘行・北海道削蹄師）

基調講演1では、内地のコンサルタントが、「大規模農場では、農場に削蹄枠場や、削蹄係を配置するようになってきた」事や、「蹄浴の管理や施設の清潔環境で蹄病が減ってくる」事を話してくれました。蹄病の減少と同時に繁殖成績の上昇も連動したようです。

基調講演2では、オホーツクのコンサルタントが、「良い削蹄師に巡り合うことで蹄病の発生が大きく減少した」ことを述べられました。また、この方は一般演題4で、ゲノム情報は蹄病の減少に繋がる可能性がある事にも言及されました。一般演題6の、酪農学園大学からの発表では、「ある農場での3年間のデータから、DDは、1度かかると再発率が高いので、育成・初産時期から予防することが大事」とのこと、話をつなげると、農場が積極的に交配から育成から配慮し、早期発見早期治療は農場・削蹄師・獣医師と連携しあうことが理想であり、繁殖への好影響が強く期待できます。

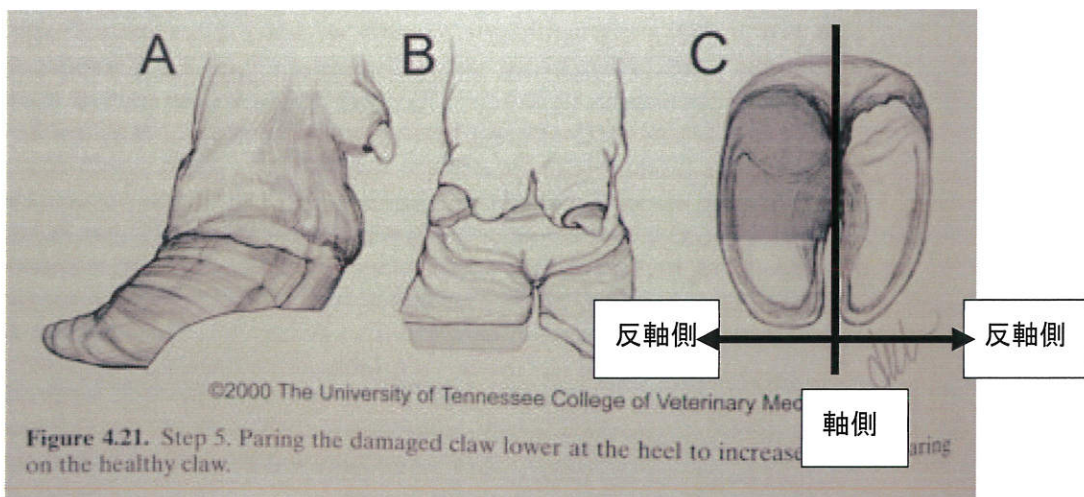
その他、重度病変の牛を廃用にしないための「蹄病をギブス固定で治療する（ギブス内で病変を宙に浮かせることで安静を図る）方法が紹介されました。これは私も取り入れて効果を実感しています。また、演題9では、殺虫剤じゃなくて、虫除けスプレーの方が良く効く（牛・人への影響少）なので、削蹄時には虫除けスプレーを使用している」ことを教えてくださいました。

このように、削蹄師を含めた全国規模の勉強会は他にないため、学術や日常のトピックを含めた貴重な交流の場となっています。私は会長として今年も会の運営に頑張る所存ですし、顧客農家様への技術還元に残り少ない獣医人生、労を惜しまず取り組みます。

蹄底潰瘍（ていていかいよう）や、白帯病（はくたいびょう）のような蹄角質病変（ていかくしつびょうへん）は、ルーメンアシドーシスが潜在性にある上で、硬い床面に長時間起立すること（蹄底潰瘍）や、急旋回（白帯病）が原因となります。そして、大抵の蹄角質病変は蹄踵（ていしょう：かかと）に発生します（体重を支えるときに荷重が掛かりやすい）。右は、右後肢における踵部の角質病変です。

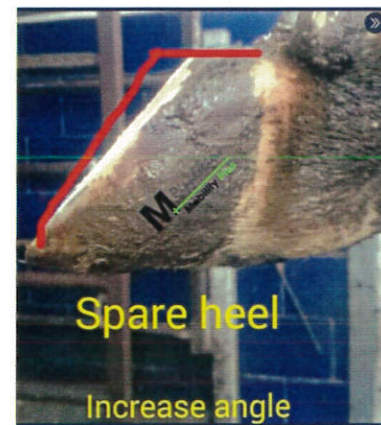
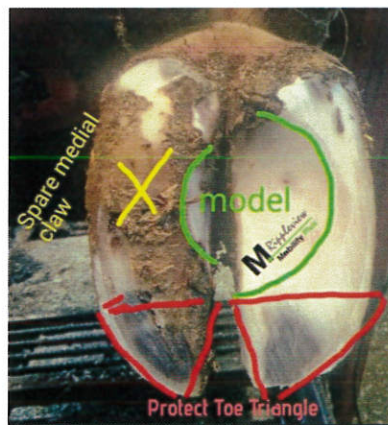


このように蹄踵部に病変がある場合、下図のように、軸側（じくそく）から反軸側（はんじくそく）まですっかり除去する（ヒールレステクニック）方が、後の再生が上手くいくのです。



OPTION : 【維持の削蹄】アメリカナイズされたダッチメソッド  
Hoopleview Hoof Care (Jamie Sullivan)

最近のアメリカの削蹄は、蹄踵（特に外蹄）に大きな土踏まずを作り、角質病変を減らすことができます。しかし、そのためには数か月～数年掛けて、蹄踵を保護し、育てる必要があります。そのあたりは全頭削蹄をされている担当者との意思疎通が大事です。



蹄尖の三角地帯はとても重要



ちなみに左はレディー・ガガのステージシューズで、その名も「ヒールレス・シューズ」。日本の館鼻則孝氏が、2010年に東京藝術大学美術学部工芸科染織専攻科の卒業制作で発表したものを、レディー・ガガがSNSで発掘したそう。これでも動き回れるわけだから、牛でも大丈夫であることが証明された。

阿部